

令和7年度事業報告

I 概要

計量の普及啓発、計量管理の推進、計量の教育・訓練、計量の情報調査・交流、試験・校正及び計量管理受託業務の6事業を中心に事業を実施した。

計量の普及啓発については、計量記念日事業として、全国統一ポスター、広報誌の作成・配布及び計量啓発標語、何でもはかってみようコンテストの募集・表彰を行い、記念日全国大会を開催した。

計量管理の推進については、自動はかりの計量管理に関する委員会は休会とし、計量管理システムのグローバル化についての調査・研究を実施した。

計量の教育・訓練については、各分野における計量担当者を対象とした各種講習会や計量士国家試験対策講習会及び中小企業向け測定基礎教育研修を実施した。

計量の情報調査・交流は、計量士部会においては、全国計量士大会を開催し、意見交換を行った。また、認定事業者部会においては、全体会議等を企画・開催した。

日本郵政グループ計量管理受託業務については、令和7年4月から令和8年3月までの受託期間、郵便局等のはかりの定期検査及び適正計量管理主任指導等の業務を実施した。また受託体制整備のため計量管理講習会を合計2回対面で行い登録計量士とした。

試験・校正センターにおいては、力計、一軸試験機、温度計、質量(分銅・おもり)等の校正・検査事業を推進するとともに、認定維持審査の受審、標準維持業務及び一軸試験機の現地監査等を実施した。

その他、「計量」の情報発信の強化をするための基盤整備を推進した。

II 会員の状況(令和8年3月31日現在)

種別	令和6年度会員数	令和7年度会員数	増減
第1種正会員	77	78	1
第2種正会員	88	87	△1
賛助会員	34	34	0
計	199	199	0

入会 栃木県計量士会 4月 退会 アキレス(株) 4月

III 役員の状況(令和8年3月31日現在)

1 役員数

会長 1名、副会長 4名、専務理事 1名、常務理事 2名、理事 28名、
監事 3名 計39名

2 顧問

顧問 1名

IV 会議

1 第14回定時総会 令和7年5月29日 於：ホテルインターコンチネンタル東京ベイ 【議案】

- ・ 令和6年度事業報告について
- ・ 令和6年度決算報告について
- ・ 役員の退任・交代について

【報告事項】

- ・ 令和6年度公益目的支出計画実施報告について
- ・ 令和7年度事業計画及び収支予算について
- ・ その他

2 理事会

第1回 令和7年4月17日 於：主婦会館プラザエフ

- ・ 令和6年度事業報告について
- ・ 令和6年度決算報告について
- ・ 令和6年度公益目的支出計画実施報告について
- ・ 計量功労者表彰受賞者名簿(案)(日計振会長表彰)について
- ・ 第14回定時総会次第(案)について
- ・ その他

第2回 令和7年11月13日 於：ニューオーサカホテル

- ・ 令和7年度中間事業実施状況と今後の事業について
- ・ 委員会、部会の説明及び委員について
- ・ その他

第3回 令和8年3月19日 於：主婦会館プラザエフ

- ・ 令和8年度事業計画(案)について
- ・ 令和8年度収支予算(案)について
- ・ 低温層購入について
- ・ 高圧受電設備「UGS」設置について
- ・ その他

3 監事会 令和7年4月15日 於：日本計量会館

- ・ 令和6年度の理事の職務の執行、事業報告、計算書類等の監査及び令和6年度公益目的支出計画実施報告に関する監査

V 事業概要

1 計量の普及啓発

1. 1 計量記念日関連事業

(1)組織委員会

6月9日に組織委員会(委員長：鍋島孝敏 日本計量振興協会会長)を開催した。審議の結果全国大会の日程、場所、全国統一ポスター・広報誌の作成、「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の募集、特別講演、レセプション等の事業実施方針が決定された

(2)実行委員会

組織委員会の決定を受け、7月8日に第1回実行委員会(委員長：谷本 淳 日本計量振興協会副会長)を開催し、“たればんだ”をキャラクターとした計量啓発全国統一ポスターデザイン案を決定した。また、広報誌「計量のひろば」の特集テーマ及び特別講演の候補案について討議した。

9月16日に第2回実行委員会を開催し、作成したポスター及び広報誌を確認するとともに、「計量啓発標語」の応募作品710点を厳正に審査した結果、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点、佳作10点を決定した。また、「何でもはかってみようコンテスト」の応募作品26点を厳正に審査した結果、14点を一次審査通過作品(上位入賞候補)として選定した。

(3)計量記念日全国大会

11月4日、ホテルインターコンチネンタル東京ベイ(東京)において、経済産業省・計量記念日組織委員会が主催し、計量団体の協賛、協力を得て、計量記念日全国大会を開催した。

式典(経済産業省主催)においては、計量関係功労者6名に対する経済産業大臣表彰及び計量制度運営等貢献者11名(うち日計振推薦4名)に対するイノベーション・環境局長表彰が行われた。記念行事(計量記念日組織委員会主催)においては、「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の最優秀作品賞等の発表、組織委員長からの表彰が行われた。引き続き、「生成AIで世界はこう変わる」と題し、北陸先端科学技術大学院大学客員教授・GenesisAI代表取締役社長/CEOの今井翔太氏による特別講演が行われた。その後のレセプション(計量記念日組織委員会主催)においては、関係者の連携強化が図られた。

(P9 令和7年度 経済産業大臣、P10 イノベーション・環境局長表彰受賞者名簿 参照)

(4) 全国統一ポスターの作成・配布

実行委員会において内容、デザイン等を検討し、本年度は「見る人の心をふわりと和ませながら、計量の大切さをやさしく伝える」を訴求するために、特に女性や10～20代に高い人気を集めている“たればんだ”をキャラクターに起用した全国統一ポスターを26,000枚作成し、関係各所及び当会会員等へ配布した。

(5) 「計量のひろば」の作成・配布

本年度は、「適正計量管理事業所ってご存じですか？」について特集し、①適正計量管理事業所ってなあに？、②どんなところが指定されているの？、③適正計量管理事業所の指定を受けるには～適正計量管理事業所の要件、④適正な計量管理が信頼につながる～適正計量管理事業所のメリット、⑤公正な取引と安全な暮らし支えるしくみ、についてイラストを含めて分かりやすく紹介した(大阪計量士会会長の高橋夏樹氏著)。また、昨年度(令和6年度)の「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の上位受賞作品も併せて紹介した「計量のひろば」No. 68を43,000部作成し、関係各所及び当会会員等へ配布した。

(6) 「計量啓発標語」の募集

関係各所を通じて、標語の募集を行ったところ、全国から710点の応募があった。第2回実行委員会で、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点及び佳作10点を決定し、計量記念日全国大会において、発表、表彰した。最優秀作品賞等は、計量ジャーナル冬号(Vol. 45-4)に掲載した。

(7) 「何でもはかってみようコンテスト」の募集

小学生を対象にした「何でもはかってみようコンテスト」は、宮城県、福島県、茨城県、東京都、神奈川県、山梨県、富山県、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県及び香川県の小学校から26点の応募があった。第2回実行委員会で選定された一次審査通過作品14点を9月26日開催の何でもはかってみようコンテスト審査委員会(委員長：本多 敏 慶應義塾大学名誉教授)で厳正に審査した結果、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点及び奨励賞10点を決定し、計量記念日全国大会において、発表、表彰した。最優秀作品賞及び優秀作品賞は、計量ジャーナル冬号(Vol. 45-4)に掲載した。

(P11 令和7年度記念行事受賞作品一覧参照)

1. 2 計量普及

(1) 当会機関誌の発行

① 「計量ジャーナル」

Vol. 45の春号、夏号、秋号、冬号を各々約3,000部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。

② 「計測標準と計量管理」

Vol. 75の5月号、8月号、11月号、2月号を各々約3,000部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。一部は有料で頒布している。

(2) 計量士国家試験対策テキスト等の発行

「計量法の概要」(令和7年度版)をはじめ、計量士国家試験準備講習会等において使用する「計量士国家試験全問題と解説」等のテキスト13種類を、編集し、発行した。本テキストは有料で頒布している。

1. 3 中小企業向け測定基礎研修の開催

昨年度に引き続き、地域中小企業技術者向けの、長さ、質量及び温度に関する測定基礎研修会を7府県10箇所で開催した。参加企業は69社、参加者は129名であった。本年度の研修実施状況の報告等を行う中小企業向け測定基礎研修運営委員会(委員長：横田貞一 日本計量振興協会副会長)は、令和8年6月上旬までに開催を予定している。

(P12 中小企業向け測定基礎研修開催状況 参照)

1. 4 「計量」の情報発信の強化

「計量」の情報発信強化のため、ホームページの更新と機関紙のPDF公開(パスワード付き)のための基盤整備を推進した。

2 計量管理の推進

2. 1 自動はかりの計量管理推進委員会

継続開催してきた委員会(委員長:金井一榮 日本計量振興協会副会長)を、本年度は休会とした。昨年度当会Web上に公開した「自動捕捉式はかりを使用する事業者向け計量管理規程モデル」について、適正計量管理事業所等の具体的課題の情報収集に務めた。なお、来年度は委員会の再開を予定している。

2. 2 計測管理システムの調査研究委員会(ISO/JIS Q 10012 調査研究委員会)

昨年度に引き続き、第1回委員会(委員長:中野廣幸 愛知県計量連合会)を12月19日に開催し、ISO 10012:2003 規格(計測マネジメントシステムー測定プロセス及び測定機器の要求事項)の大幅な改定最終草案(FDIS:品質マネジメントー測定管理システムの要求事項)に対する解釈の標準化と共有について、中野委員長から説があり質疑応答を行った。続いて第2回委員会を3月27日に開催し、ISO 9000 の改定最終草案(FDIS)中の品質マネジメントの基本及び用語について、中野委員長から説明があり質疑応答を行った。また、改定後の ISO 10012:2026 規格を知ってもらい活用してもらうための啓蒙活動について、意見交換を行った。

3 計量の教育・訓練

3. 1 計量管理者養成教育

(1)第38回 品質管理推進責任者養成コース

指定製造事業者、計量法やISOの認定を受けた事業所の品質管理推進責任者及び予定者を対象にして、6月2日～6日に東京会場(19名)で開催した。

(2)第21回 ISO/IEC 17025 内部監査員研修

JCSS 校正事業者の内部監査員及び予定者を対象にして、12月4日、5日に東京会場(12名)で開催した。

3. 2 計量担当者教育

(1)第35回 計量管理技術基礎講座

ISO 9000 シリーズで要求されている計量計測分野に従事する担当要員を対象にして、11月11日、12日に東京会場(16名)で開催した。

3. 3 計量士の育成

(1)計量士国家試験準備講習会

第76回計量士国家試験は、12月14日に行われた。本講習会は、国家試験の一般計量士及び環境計量士(濃度関係)の受験予定者等を対象にして、7月1日～4日に大阪会場(50名)で、また、7月22日～25日に東京会場(48名)で開催した。

(2)計量士国家試験直前対策講習会

本講習会は、国家試験実施前の10月1日～3日に東京会場(44名)で、また、10月16日、17日に大阪会場(46名)で、国家試験の合格率を高めるため、過去問題を中心とした講習内容で開催した。

3. 4 計測器校正技術者の研修講座

計測器の校正技術者として必須な基本知識・技術を一通り習得し、今後のより専門的な校正業務に生かしていただくための講義・演習からなる第17回計測器校正技術者研修講座プログラムを、8月21日、22日に東京会場(22名)で開催した。

3. 5 計量士の育成・確保のための取り組み

若手計量士の育成に関して、令和6年度からの指定定期検査機関職員についての教習受講料の省令改正を受けて各地区の指定定期検査機関に計量教習受講を促した。

3. 6 計量制度(政省令)改正に対応した取り組み

(1)自動はかりの検定制度への対応に関して、指定検定機関との情報交換を実施(6月10日、9月11日、12月11日)。検定受検を促す広告を機関紙2誌で各2回掲載。

(2)計量士を対象とした自動はかりの技術講習会

＜指定検定機関の計量士養成コース＞

自動はかりの技術講習会は、指定検定機関において“検定を実施する者”のうち、雇用形態が臨時社員の計量士が受講すべき講習として示された、「指定検定機関に係る法

規並びに検定対象とする特定計量器の構造、技術基準及び検定の実務に係る演習を内容とすること」に対応した研修講座として実施している。本年度は、次のとおり2回開催した。

① 第1回：11月27日(木)札幌市「北海道計量検定所」 受講者12名

② 第2回：2月17日(火)高松市「鎌長製衡(株)会議室」 受講者23名

講座カリキュラムの概要は、次のとおり。

1 計量法における検定制度 2 指定検定機関制度 3 検定に携わる計量士の資質

4 質量計の検定の技術基準(非自動はかり、自動はかり)

5 自動捕捉式はかりの検定 6 演習／システム化による検定データ管理・結果の評価

7 理解度チェック

4 計量の情報調査・交流

4.1 計量士交流会

(1) 計量士部会(部会長：金井一榮 日本計量振興協会副会長)

計量士部会は、計量士技術講習会、全国計量士大会の開催と運営等について審議するため、5月19日(月)、7月22日(火)及び10月10日(金)の3回開催した。

(2) 第24回全国計量士大会

2025年度は、2026年2月27日(金)に、「ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋」(名古屋市中区金山町一丁目1番1号)で開催した。メインテーマは「計量業務の効率化と拡大」と題して、3名の計量士により自動車会社の“計量管理”への取り組み、改正された薬局方、計量検査インターンシップ活動について、計量士への期待と次世代の計量士育成に関わるテーマの発表が行われた。参加者151名

4.2 校正事業者(認定事業者)交流

(1) 校正事業者部会(部会長：竹歳尚之 計量標準総合センター 計量標準普及センター長)

計測器校正技術者研修講座、運営委員会、全体会議を開催するとともに、産業技術総合研究所 計量標準総合センター見学会、計測標準フォーラム講演会等の校正事業者交流活動を実施した。

(2) 見学会

7月31日に(一社)日本電気計測器工業会、(一社)日本計量機器工業連合会と当会の計量三団体合同で、産業技術総合研究所 計量標準総合センターでの見学会(見学会の前に講演会、後に交流会)があり、各団体からそれぞれ30名前後の参加者があった。

(3) インターメジャーへの参画

隔年開催のため、本年度は開催しない。

(4) 計測標準フォーラム講演会

計測標準フォーラム第23回講演会(テーマ：つぎをつくる計量標準・計測技術—メートル条約締結150周年—)が、11月11日に産総研臨海副都心センター別館で開催され、本フォーラムの構成団体として開催に参画した。

(5) 認定事業者部会運営委員会(委員長：竹歳尚之 計量標準総合センター 計量標準普及センター長)

1月27日に運営委員会を開催し、JCSS等の動向、第17回計測器校正技術者研修講座の実施状況、及び全体会議次第(案)について報告、討議を行った。

(6) 認定事業者部会全体会議

3月3日に全体会議を開催し、日本計量振興協会の事業実施について、産総研計量標準総合センターにおける知的基盤整備の取り組み、計量DXの国内及び国際動向、及びJCSS等の動向について、各報告・講演の後、質疑応答を行ない、引き続き計量DXの活動事例として、JEMICにおけるデジタル校正証明書の仕組みと発行状況、JQAにおける校正証明書のデジタル発行の各発表の後、質疑応答を行った。部会員ら36名が参加した。

4. 3 国際交流

(1) 「日本・韓国・中国計量測定協力セミナー」

3国持ち回りで開催する「日韓中計量測定協力セミナー」は、隔年開催のため本年度は開催しない。

(2) ISO 10012 規格の普及・活用や改定等に関して、韓国計量測定協会(KASTO)との協力関係を昨年に引き続き継続した。

4. 4 地区計量団体連絡会議

(1) 地区計量団体連絡協議会への参画

全国6地区ブロックで開催される地区計量連絡協議会は、本年度の開催は以下のとおり。

- ・ 7月10日(木)中部7県計量協議会 富山県富山市 (ホテルグランテラス富山)
- ・ 7月25日(金)九州計量協会連絡協議会 熊本県熊本市 (アークホテル熊本城前)
- ・ 10月2日(木)東北北海道計量大会/連合会総会 山形県山形市
(ホテルメトロポリタン山形)
- ・ 10月23日(木)関東甲信越計量団体連絡協議会 新潟県新潟市
(ANAクラウンプラザホテル新潟)
- ・ 10月24日(金)中国四国計量協会連絡協議会 愛媛県松山市
(ANAクラウンプラザホテル松山)
- ・ 11月21日(金)近畿計量大会 和歌山県和歌山市(ホテルグランビシア和歌山)
(P13 地区計量団体連絡会議一覧参照)

(2) 全国計量協会事務局長・事務担当者会議

開催日：2025年9月5日(金)ホテルグランドヒル市ヶ谷

《テーマ》「事業の拡大と事務処理等の効率的対応」について

- ・ 5氏による講演
- ・ 分科会
 - ① 事務局長会議「各協会の事業の取り組み」について意見交換
 - ② 事務担当者会議「事務処理の効率的対応」について意見交換

(3) 地区計量士協議会への参画

地区で開催される計量士会総会等での課題検討、意見交換及び研修に参加し、当会及び計量士部会の運営に活かしている。本年度は、下記のとおり開催される。

- ① 東北・北海道計量士協議会(11月28日(金)青森市))
 - ② 一般社団法人九州計量士会総会(11月22日(金)熊本県玉名市)
- (P13 地区計量団体連絡会議一覧参照)

5. 日本郵政グループ計量管理受託業務の実施

5. 1 業務契約の状況

日本郵便株式会社との契約は、令和7年4月から令和9年3月までの2年間契約中である。

日本郵政株式会社との契約は、旧東京通信病院1箇所のみである。

5. 2 受託業務の内容

(1) 受託期間 令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間

(2) 主な受託項目

- ・ 窓口用はかり及び集荷用はかりの定期検査
- ・ 適正計量管理主任者の指導
- ・ 分銅校正
- ・ 計量管理関係事務(書類の作成、申請・届出等)

5. 3 実施方法

- (1) 当会は、受託業務の実施にあたり地域計量団体と電磁的記録による協定を結ぶ。
- (2) 業務に携わる計量士は、当会A会員であって、計量管理講習会を修了し、地域計量団体の長の推薦を得た者に限定している。

5. 4 受託事業の的確な運用について

(1) 業務執行資料集等の改訂

日本郵便株式会社との契約細目の変更等に合わせ、事務書類を現場で使用する上での利便性も考慮して、「計量管理業務実施の手引き」及び資料類を見直し、受託業務の徹底を期している。業務内容に大きな変更点はなかったものの、現場での利用に配慮して継続的に報告書等、各種書類の改訂を行った。

(2) 日本郵政グループ計量管理講習会について

受託事業の的確な運営上、登録計量士の確保と継続的に研修体制を維持することが求められている。このため、本年度からは、コロナ感染症拡大対策として行っていたWeb開催は終了し、従来型の会場での開催に戻した。講習会は、東京(5月15日)、大阪(6月3日)の2会場で実施した。全受講者は、109名であった。

(3) 事業に携わる計量士等の状況(括弧内数字は、昨年度)

本年度の登録計量士数は、290名(308)、補助者7名(18)である。新規に登録した計量士15名には、当会発行の「証明書」(顔写真付き身分証明書)を交付した。

(4) 計量管理関係事務

日本郵便株式会社の新規指定手続き12局、住所、郵便局名等の変更届79局、及び廃止届69局の手続きを行った。

5. 5 計量管理業務の実施結果

業務実施結果は、以下に示したとおり、堅実に完了した。

項 目	日本郵政		日本郵便		総合計		比 率 (%)
	予定数	実 績	予定数	実 績	予定数	実 績	
I-1 計量器の定期検査	97	95	28,447	28,827	28,544	28,922	101
(1) 窓口用はかり	-	-	14,815	14,801	14,815	14,801	100
(2) 集荷用はかり	-	-	13,632	14,026	13,632	14,026	103
(3) 医療用はかり	97	95	-	-	97	95	98
I-2 計量管理に関する事務							
(1) 適正計量管理主任の指導	1	1	10,101	9,912	10,102	9,913	98
(2) 自主検査用分銅の校正	18	18	0	38	18	56	311
(3) 本社質量比較器の校正	-	-	6	6	6	6	100

6 試験・校正センター

6. 1 試験・校正事業の実施

試験・校正センターの2022年度から2025年度の件数比較を表1に示す。本年度の力計、一軸試験機及び温度計の校正は昨年同様に実施された。

表1 2022年度から2025年度の校正件数

年度 検査項目	試験・校正の件数				
	2022	2023	2024	2025	前年比件数
一軸試験機	963	962	968	932	96.3 %
力 計	388	388	392	383	97.7 %
温 度 計	2,314	2,350	2,525	2,503	99.1 %
分 銅 等	612	414	472	499	105.7 %
そ の 他	602	450	358	345	96.4 %
合 計 件 数	4,879	4,564	4,715	4,662	98.9 %

6. 2 試験・校正事業に関連する業務の実施

6. 2. 1 認定事業関連

- (1) 技能試験 質量区分／分銅・おもりの技能試験に参加
 - (ア) 期間：2025年3月14日～2025年9月11日
 - (イ) 仲介器仕様：協定質量 200 mg、1 g、50 g、200 g、2 kg
 - (ウ) プロバイダー：日本電気計器検定所
 - (エ) 参照機関：(国研)産業技術総合研究所 計量標準総合センター(NMIJ)
 - (オ) 試験・校正センターの校正期間：2025年4月25日～2025年5月15日
 - (カ) 2026年1月に報告書を受領し、En 値評価により満足な結果であった。
- (2) JCSS 登録更新審査または認定維持審査の受審
審査は登録更新審査が4年周期、認定維持審査が2年周期で行われ、本年度は認定維持審査を受審した。結果指摘事項はなく、良好な結果となった。
- (3) 校正機関を維持するための標準維持業務
 - ① ガラス製温度計の常用参照標準の温度目盛校正(2セットを半年ずつずらして依頼校正、一般財団法人日本品質保証機構、株式会社チノー)
 - ② 一軸試験機・・・日計振の力基準機による校正・・・現地校正に使用するロードセル、環状力計約50台を期限に合わせて順次校正。(校正周期：2年)

6. 2. 2 外部活動等に参加

- (1) 第24回計力学量標準トレーサビリティ・ワークショップ
2025年6月6日に力学量標準トレーサビリティ・ワークショップが東京秋葉原UDXにて開催され、日計振から受講者として6名が参加した。
- (2) NITE の力分科会
2026年3月に開催された分科会に参画
- (3) (一社)日本試験機工業会主催の力標準技術委員会
2025年4月、2025年7月、2025年10月、2025年11月、2026年3月に開催された委員会に参画
- (4) (一社)日本試験機工業会主催の力標準トレーサビリティ連絡会議総会
2025年7月に開催された連絡会議に参画

7. 1 顕彰事業

- (1) 日計振 会長表彰 令和7年5月29日
於：ホテルインターコンチネンタル東京ベイ
(P14 第14回計量功労者表彰受賞者名簿 参照)
- (2) 令和7年度計量記念日関係
(日計振会長推薦者)
 - 1) 産業技術環境局長表彰「計量制度の運営等に貢献した受賞者」(4名)
 - ・ 菅沼 隆夫 味の素食品(株)川崎工場 企画・保全部
 - ・ 高井 哲哉 中央精機(株)品質保証部 計測管理室 室長
 - ・ 力石 芳郎 (公社)神奈川県計量協会
 - ・ 江本 健一 大阪計量士会 常任理事

7. 2 全国計量器販売事業者連合会事務受託事業

理事会 第1回 令和 7年 4月17日 於：主婦会館プラザエフ
第2回 令和 7年12月17日 於：日本計量会館
総会 令和 7年 7月 4日 於：スパリゾートハワイアンズ(福島県)

令和7年度（第74回）経済産業大臣表彰

【計量関係功労者表彰】

[五十音順、敬称略]

氏 名	所属・役職等
おおすみ たけし 大角 武志	株式会社オオスミ 代表取締役
おおの さとし 大野 哲	株式会社イズミテック 代表取締役社長
おおもり のりお 大森 規雄	共栄衡器株式会社 代表取締役社長
たかすが たくみ 高菅 卓三	株式会社島津テクノリサーチ 特任フェロー
てつか まさとし 手塚 政俊	日本電気計器検定所 検定管理部 部長
むらかみ のぼる 村上 昇	株式会社村上衡器製作所 代表取締役

<表彰理由>

計量関係事業者、計量関係団体の職務において、多年にわたって計量関係事業の発展、計量器の発達・改善、計量思想の普及又は計量行政の運営等に尽力し、その功績が顕著である。

以上6名

令和7年度（第18回）イノベーション・環境局長表彰

【計量制度運営等貢献者表彰】

[五十音順、敬称略]

氏 名	所属・役職等
あいじま ひでき 相島 秀樹	有限会社水戸衡器製作所 代表取締役
いはら としひで 井原 俊英	長野計器株式会社 技術顧問
えもと けんいち 江本 健一	大阪計量士会 相談役
しまだ まさき 島田 正樹	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 工学計測標準研究部門 質量計試験技術グループ 研究グループ長
すがぬま たかお 菅沼 隆夫	味の素食品株式会社 川崎工場 企画・保全部 保全課
たかい てつや 高井 哲哉	中央精機株式会社 品質保証部 計測管理室 室長
ちからいし よしろう 力石 芳郎	公益社団法人神奈川県計量協会
ひさもと やすひで 久本 泰秀	エーアイサービス有限公司 代表取締役
ほし しゅういち 星 修一	全日本皮革計量協会 顧問
み わ かずひろ 三輪 和弘	愛知時計電機株式会社 生産本部 本部長付 シニアマネージャー
ゆ さ こうへい 遊佐 康平	元 福島県計量検定所 指導課 主査

<表彰理由>

計量制度の運営等に関して貢献をし、その功績が顕著である。

以上11名

令和7年度記念行事受賞作品一覧

1. 計量啓発標語表彰

○応募総数 710点

○最優秀作品賞 1点、優秀作品賞 3点、佳作 10点

・最優秀作品賞

「計量管理 精度が支える 日本の技術」

兵庫県

脇本 啓子

・優秀作品賞

「計量で 守る品質 豊かな社会」

山梨県

相澤 健司

・優秀作品賞

「計量で 未来につながる安心を」

福島県 高校生 大和田 悠夏

・優秀作品賞

「正しい知識で確かな計測、品質支える計量管理」

福井県 会社員 下山 公敏

2. 何でもはかってみようコンテスト表彰

○応募総数 26点

○最優秀作品賞 1点、優秀作品賞 3点、奨励賞 10点

・最優秀作品賞

「洗たく物の秘密をはかってみた」

香川県 小学4年生 鎌田 小希帆

・優秀作品賞

「ネバネバのたべもののネバネバのながさはどれくらい？」

東京都 小学2年生 近藤 広晴

・優秀作品賞

「小学校の各地区のカロリーを出す」

大阪府 小学4年生 条 菜月

・優秀作品賞

「すごい！こう貨のひみつ」

茨城県 小学3年生 大垣 護

令和3年度～令和7年度 5ヵ年全国中小企業向け測定基礎研修会開催状況

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
開催都道府県	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数
岩手県	19	2	23	2	23	2	29	2	11	2
宮城県	19	1	21	1	21	1	39	1	19	1
群馬県	9	1	26	1	18	2	31	2	30	2
埼玉県	29	5	27	6	39	5	53	6	53	6
富山県	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
福井県	0	0	10	1	4	1	0	0	0	0
岐阜県	0	0	0	0	26	2	0	0	0	0
愛知県	34	5	28	5	24	5	17	5	2	4
三重県	0	0	10	3	19	3	0	0	2	3
京都府	14	6	1	3	9	2	2	2	12	2
参加者数及び講師数	127	21	146	22	183	23	171	18	129	20
開催府県数	7 府県		8 府県		9 府県		6 府県		7 府県	

地区計量団体連絡会議一覧

日時	令和7年7月10日(木)	令和7年7月25日(金)	令和7年10月2日(木)	令和7年10月23日(木)	令和7年10月24日(金)	令和7年11月21日(金)	令和7年11月21日(金)	令和7年11月28日(金)
開催団体	中部7県計量連絡協議会 議	九州計量協会連絡協議会	東北北海道計量大会/連合 会総会	関東甲信越計量団体連絡 協議会	中国四国計量協会連絡協 議会	近畿計量大会	九州計量士会定時総会	東北・北海道計量士協議 会
開催場所	富山県富山市 (ホテルグランテラス富 山)	熊本県熊本市 (アークホテル熊本城 前)	山形県山形市 (ホテルメトロポリタン山 形)	新潟県新潟市 (ANA クラウンプラザホテ ル新潟)	愛媛県松山市 (ANA クラウンプラザホ テル松山)	和歌山県和歌山市 (ホテルグランヴィア和 歌山)	長崎県西海市 (鰐魚の宿)	青森県青森市 (アップルハハウス青森)
参加人数	104名	38名	148名	184名	75名	303名	16名	25名
大会記念事業			寄贈品：「車椅子体重 計」					
表彰	計量功労者表彰 12名		計量功労者表彰 6名 2社	感謝状 12名	計量関係功労者表彰 4 名	会長感謝状 1社		
議題	1.連合会(計量協会)事 務局の事業継続性の確 保、及び定期検査業務の 効率化について 2.「次回開催地につい て」 事例発表 人材確保育成事 業「計量検査インターン シップ(実地研修)事業の 協働活動について」	1.令和6年度九州計量協 会連絡協議会収支決算書 について 2.令和7年度九州計量協 会連絡協議会収支予算 (案)について	1.既使用「自動捕捉式は かり」の円滑・着実な使 定実施に向けて 2.連合会総会の次期開催 地について	1.会務・会計報告及び会 計監査報告 2.事業計画及び予算書	(1)次期開催県について		1.2024年度事業報 告、同収支決算報告及び 監査報告 2.2025年度事業計 画、同収支予算について 報告	1.計量士の県を跨いだ広 域活動の在り方について 2.指定検定機関との連 携・協力に係る関係事務 等の進捗状況について(情 報交換) 3.計量士等の育成・確保 について(はかり検査等 の円滑で持続可能な実施 に向けて)(情報交換)
提案議題		1)検定申請代行業務に ついて 2)郵政事業について 3)郵政計量管理業務の 実施経費について 4)郵政計量管理受託業 務について		1)持続可能な協会活動を 可能とするための新たな 取り組みについて 2)自動捕捉式はかりの検 定に対する準備状況等に ついて 3)一般計量証明事業者の 認知度を高める取り組み について				
記念講演	富山県の観光について～ 新たな時代の観光と魅力 再発見～			度量衡規制から現在まで の計量規制の変遷(計量規 制の未来予測図)	俳句のある人生	第1部テーマ はかるということ 第2部テーマ 世界遺産の熊野三山と熊 野古道	1.計量行政室発行の「デ ジタル原則を踏まえた計 量関係法令の適用に係る 解釈 の明確化等について」 2.外国製の特定計量器 のについて情報交換	
翌日	親睦ゴルフ			見学会、親睦ゴルフ	見学会			
次年度の開催県	愛知県	福岡県	宮城県	東京都	広島県	奈良県	佐賀県	山形県

一般社団法人日本計量振興協会
第14回計量功労者表彰受賞者名簿
(令和7年5月29日)

○第1種正会員(団体)関係

No.	表彰者氏名	年齢	推薦(団体)会員名
1	佐藤 智宏	55	一般社団法人計量計測技術センター
2	水上 大輔	50	一般社団法人宮城県計量協会
3	武田 憲一	69	一般社団法人山形県計量協会
4	宗形 信二	67	一般社団法人茨城県計量協会
5	細谷 美佳	60	一般社団法人埼玉県計量協会
6	鶴見 昭治	80	一般社団法人千葉県計量協会
7	恵比寿 真	64	東京計量士会
8	曾我 良成	59	公益社団法人神奈川県計量協会
9	森 春記	47	神奈川県計量士会
10	山本 展義	63	愛知県計量連合会計量士部会
11	片桐 章	61	三重県計量協会
12	増山 裕二	59	公益社団法人富山県計量協会
13	中村 圭介	56	石川県計量協会
14	板橋 純也	52	福井県計量協会
15	浅井 良乗	70	大阪計量士会
16	宮島 松一	70	大阪計量士会
17	佐藤 高司	74	一般社団法人岡山県計量協会
18	竹尾 好憲	72	一般社団法人山口県計量協会
19	辰野 哲夫	77	香川県計量協会
20	天田 博文	53	一般社団法人長崎県計量協会
21	西田 勝幸	60	一般社団法人熊本県計量協会

○第2種正会員(法人)関係

No.	表彰者氏名	年齢	推薦(団体)会員名
1	小路 智之	55	株式会社オーバル
2	廣瀬 浩二	54	鎌長製衡株式会社
3	唐谷 茂樹	52	讃光工業株式会社
4	石田 進一郎	51	新光電子株式会社
5	行田 克明	58	株式会社タツノ
6	東 茂晴	55	株式会社タニタ
7	畑中 勝利	58	株式会社チノー
8	金澤 芳隆	56	トヨタテクニカル・イノベーション株式会社
9	石沢 隆成	52	長野計器株式会社
10	皆川 晴義	54	日東インダ株式会社
11	兵田 洋朝	59	日本圧力計温度計工業会